



大阪市立大学
工学部同窓会

同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL 06 (6607) 8 3 7 3

FAX 06 (6605) 2 7 6 9

発行人 田守 芳勝



建部 涉作

《 目 次 》

表紙絵「UEサッカー選手権を待つウイーン」… 1	学科の近況・会員短信（情報工学科）……………14
田守会長・大嶋名誉会長の挨拶…………… 2	〃 （バイオ工学科）……………15
募金にぜひともご協力を…………… 3	〃 （知的材料工学科）……………16
ITインフラ委員会からのお知らせ …… 4	〃 （環境都市工学科）……………17
工学研究科・工学部だより…………… 5	平成22年工学部卒業生名簿……………18
学科の近況・会員短信（機械工学科）…………… 7	〃 工学研究科修了生名簿……………19
〃 （電気工学科）…………… 8	〃 工学部入学生名簿……………20
〃 （応用化学科）…………… 9	〃 工学研究科入学生名簿……………21
〃 （建築学科）……………11	工学部同窓会事務局年報……………22
〃 （都市基盤工学科）……………12	平成23年評議員会案内・工学部電話番号・後記……………23
〃 （応用物理学科）……………13	平成23年“工学部同窓会設立50周年記念行事”の案内…24

ご挨拶

工学部同窓会会長 田守 芳勝



理工学部から工学部が分離独立した年の1960年11月の設立総会で誕生した大阪市立大学工学部同窓会は本年11月で50年、半世紀が経過いたしました。その間に学舎は扇町から現在の杉本町に移転し、学科も時代の流れに沿って理・工分離がなされ当時の6学科から10学科に増

され、そして昨年度から6学科に再編成されております。研究や技術にも新しい分野が生まれ、従来の学際的な分野に新しい技術が生まれております。

2007年の春に工学部同窓会の会長をお引き受けし、早くも4年が経過しようとしております。

その間には工学部同窓会設立50周年記念事業が発案され、それに伴う記念募金が始まり、皆様方にご無理、ご負担をおかけすることになりました。まだ目標の3000万円には達してはおりませんが、お陰を持ちまして、今回のご寄付の大半と同窓会の保有資産からの3,000万円を財源として運営する新しい形の奨学資金制度も発足させることが出来ました。

少子化、高学歴化が進む中、リーマンショックに始まる不景気の波は一向に過ぎ去る様子も無く、庶民の上にとどまっております。経済的な理由であたら優秀な高校生が、進学をあきらめることが少しでもなくなるよう、一般の入学試験の合格を条件に奨学資金の貸与を約束する予約型の奨学資金制度を設けました。大阪市立大学工学部を目指す高校生に対し広く応募を呼びかけております。

募金に応じていただきました多くの同窓の方々には心から御礼申し上げます。

一方同窓生会員の皆様へのサービスを一層向上させることも進めています。大学からの情報の発信や会員の皆様方相互の情報交換に便宜を図るため、会報の充実と共にインターネットでの情報交換を容易にすべくITインフラの改善に取り掛かっております。同窓生相互や先輩と学生が容易にコミュニケーションが交わせるような使いやすいITインフラを構築すべく委員会を作り検討を重ねております。

個人情報保護法の過大解釈もあり、同窓会名簿の発刊もままにはなりません。同窓会事務局では可能な限り最新の名簿情報を整備し、学科同窓会や、同期会の連絡にお使いいただく、宛名ラベルや住所録などを提供したいと考えております。必要となりましたら同窓会事務局にお問い合わせ下さい。

今後共工学部同窓会、大阪市立大学に対し格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

(応物：昭和38年卒)

工学部・工学研究科の近況

名誉会長 大嶋 寛



暑い夏がようやく終わったかと思うと、秋晴れの日を急いで通り過ぎ、一気に冬に突入したかのような今年の気候ですが、同窓生の皆様には、お元氣でご活躍のことと推察申し上げます。昨年、工学部では、入学定員(280名/年)は変わらずに、10学科体制から機械工学科、電

子・物理工学科、情報工学科、化学バイオ工学科、建築学科、都市学科の6学科体制に移行しましたが、お陰様で現在順調に推移しています。教員数は、2割削減で100名となりましたが、今まで以上に協力し合って工学研究科・工学部を発展させるべく日々努力している状況です。工学部に来られた方はお気づきになったと思いますが、A棟(工学部事務室がある棟・同窓会が設置された情報交流室はこの棟の2階)入り口に電子掲示板を設け、その中で教員や学生が授与された各種の賞なども紹介しています。工学研究科・工学部の活動の一端を示すものとして、来学されたおりに、少し足を止めてご覧いただければ、幸いに存じます。

工学研究科の外部資金(科学研究補助金・企業との共同研究・科学技術振興機構(JST)プロジェクト・奨励寄付金、等)の導入状況としては、ここ5年間ほどは毎年3億円強というところです。これをさらに大きくする仕掛けが必要ですので、工学研究科内のプロジェクト研究の推進、低炭素社会実現プロジェクトなどのJST関連プロジェクトあるいはその他の各種プロジェクト研究への応募と実施、大阪市計画調整局などとの連携を積極的に進めています。工学部を卒業して、現在、社会で活躍されている皆様(企業を含めて)との連携事業も強力に進めたいと思っています。昨年創設していただきました工学部同窓会奨学金など、同窓会には様々なご支援をいただいておりますが、工学研究科教員と卒業生の研究・教育連携のためのシステム作りなど、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

橋下大阪府知事は、大阪府立大学が運営交付金(108億強)に見合う貢献をしていないとして、文系を切り捨て、節約した税金を高校教育や医療・福祉分野に回すと主張しています。しかし、これは嘘で、大阪府が投入している税金は交付金108億のうち9億円で、99億円は大阪府が大学を持っているということで総務省から交付されている国からの交付金です。大阪府立大学の学生数が減り規模が縮小されると、地元堺市の経済活動も影響を受け、高校教育や医療・福祉分野に回すどころか、マイナスになるかもしれません。大学教育は、大阪市立大学がそのルーツから数えて今年130周年を迎えているごとく、伝統と品位のある理念と学生・卒業生・教員・市民の英知を結集して育まれていくものです。お金の計算だけで成り立つものではありません。大阪市立大学工学研究科・工学部は、その使命を果たすべく今後とも努力したいと思います。

末筆ながら、工学部・工学研究科同窓会会員の皆様のご支援に感謝しつつ、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。
(工学研究科長兼工学部長、工学研究科教授)

募金事業にぜひともご協力を

同窓会設立50周年記念募金実行委員会

昨年9月に設立50周年記念募金事業を開始し、会員、準会員（在学生）、および特別会員（教員）の皆様にお願ひして参りました。当初は募金期間を1年としておりましたが、期間内に目標額に達する見込みがたたず、2011年3月末まで延長することにいたしました。以下、募金事業の経過と進捗状況、寄付金の大半を投入する同窓会奨学金制度の概要を報告させていただきます。募金事業の成功に向け、一層のご協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。

<経過報告>

2010年11月に工学部同窓会は設立50周年を迎えます。これを機会に、「次なる新たな半世紀へ」向けて、

- (1) 工学部同窓会50年史の編纂
- (2) 会員、在学生、教員間の世代を超えた交流を図るITインフラの構築
- (3) 工学部同窓会奨学金の創設
- (4) 上記(2)、(3)の構築・運営に必要な資金の調達を目的とした募金（一口5,000円、目標額3,000万円）の実施

を内容とする設立50周年記念事業を行うことを2009年2月20日の評議員会で決定し、事業に着手いたしました。

特に奨学金制度については、(1)市大工学部で学ぶことを切望しつつも経済的理由により修学上の困難が予想される高校生に対し、入学試験前に入学後の奨学金貸与を内定するユニークな奨学金制度とする、(2)奨学金は同窓会現有資産からの3,000万円と今回募金の寄付金の大半を加えた金額で運営する、(3)制度の詳細については工学部の意向を尊重する、としております。

<平成23年度入学生向け奨学生募集要項（抜粋）>

- ◇貸与金額：一人当たり、入学手続き時50万円、2、3、4年進級時に各25万円（入学金および学費のほぼ半額）
- ◇貸与内定人数：6名（入学定員の2%）
- ◇奨学金の返済：無利子。期間は卒業後10年。毎月均等返済
- ◇応募受付：2010年11月15日(月)～11月19日(金)
- ◇応募書類：奨学金申請書、学校長の推薦状、成績証明書、父母または家計を支えている方の所得証明書
- ◇選考：書類選考。入学金・学費の支弁が困難なものを優先
- ◇内定通知日：2010年12月15日(水)
- ◇奨学金初回貸与日：前期日程入試合格者は3月11日(金)、後期日程入試合格者は3月24日(水)

詳しくは工学部同窓会のホームページをご覧ください。

<募金の進捗状況>

2010年10月31日現在の学科別寄付者数、口数、寄付金額は表1、卒業年度別寄付者数と口数は表2のようになっております。なお、昨年12月30日に「タカヤマヨシタツ」で1万円、今年8月9日に「ジョウホウコウガクカ」で1万円、いずれも三井住友銀行の口座に振り込んでいただいた2名の方の特定ができておりません。お心当たりの方は同窓会事務局までご一報をお願いいたします。

表1 募金の進捗状況（2010年10月31日現在）

会員種類	学 科	寄付者数	口数	金額(千円)
同窓会員・準会員	機械工学科	146	448.6	2,241
	電気工学科	124	295	1,475
	応用化学科	111	324	1,620
	建築学科	84	189.4	947
	土木工学科*1	116	259	1,294
	応用物理学科	98	298	1,490
	情報工学科	3	8	40
	生物応用化学科*2	5	10	50
	知的材料工学科	2	4	20
	環境都市工学科	4	8	40
	現2回生*3	8	14	70
現教員（卒業生を除く）		28	100	500
参考：現教員（卒業生を含む）		(45)	(158)	(790)
元教員（卒業生を除く）		28	85.8	429
参考：元教員（卒業生を含む）		(65)	(254.8)	(1,274)
合 計		757	2043.8	10,216

注) *1 土木工学科(都市基盤工学科) *2 生物応用化学科(バイオ工学科)
*3 平成21年度より6学科に再編されたため、2回生は学年でまとめている。

●募金にご協力をお願い●

募金目標の達成に向けて、すでにご寄付いただいている方からの増口のご寄付、一回生をはじめ在学生の保護者の方からのご寄付も含めて、一層のご協力をお願い申し上げます。

記

募金目標：3,000万円

募金単位：一口5,000円。できれば2口以上。

募金期間：2011年3月末まで

送金方法：下記のいずれかの銀行口座にお振込みください。

三井住友銀行 阿倍野支店 普通預金 口座番号 7439042

口座名義「大阪市立大学工学部同窓会募金 会長 田守芳勝」

三菱東京UFJ銀行 阿倍野橋西支店 普通預金 口座番号 0015943

口座名義「大阪市立大学工学部同窓会募金 会長 田守芳勝」

りそな銀行 阿倍野橋支店 普通預金 口座番号0135239

口座名義「大阪市立大学工学部同窓会募金」

ゆうちょ銀行 振替口座 口座番号 00900-7-303896

口座名義「大阪市立大学工学部同窓会募金」

ゆうちょ銀行への振込みには同封の「払込取扱票」をご利用

ください。他の3銀行に振り込まれる場合は、ご面倒ですが、学科、卒業年、氏名、住所などを、はがき、電話、FAX、Eメールなどにより同窓会事務局までご連絡をお願いいたします。なお、募金趣意書、発起人名簿、振込連絡はがき、募金の進捗状況、募金者リストなどは同窓会のホームページに掲載しております。

[東 恒雄（機械・昭和41年卒）]

表2 卒業年度別寄付者数と口数（2010年10月31日現在）

卒業年度	昭20 }	昭26 }	昭31 }	昭36 }	昭41 }	昭46 }	昭51 }	昭56 }	昭61 }	平3 }	平8 }	平13 }	在学生
	昭25	昭30	昭35	昭40	昭45	昭50	昭55	昭60	平2	平7	平12	平21	
寄付者数	24	33	119	127	121	98	66	30	15	17	13	18	20
口 数	52	90	320	385	366	236	142	61	35	50	49	36	36

ITインフラ委員会からのお知らせ

会員相互の交流を深めるための企画について

2010年7月に、工学部1、2回生に「卒業生との交流」に関するアンケート調査をしました。回答総数は434名（76%）で、交流に興味がある人は68%、その中でメールアドレスなどの連絡先をお知らせ頂いた方は49名でした。

このアンケート結果の詳細等は工学部同窓会ホームページに掲載しています。

学部生・院生のみなさんへ

① 学部1、2回生対象の企業見学

交流企画の一つとして、工学への興味を深め学識を拡げて頂く目的で、卒業生の仲介による企業見学会を2011年2月末～3月初旬に計画しています。見学は1日、見学先は1～2箇所の予定です。

見学希望の方は、末尾掲載の同窓会事務局までメールで希望をお伝えください。

現在計画中の企業見学先：

住友金属（和歌山）、三井化学（大阪）、
日本電気硝子（滋賀）、新日本製鉄（堺）、
日立造船（堺）、ヤンマー（滋賀）〔順序不同〕

② E-mailアドレスの登録のお願い

同窓会との交流に興味のある方はメールアドレスを末尾に掲載の同窓会事務局にお知らせください。メールを利用して同窓会HP等に掲載した情報をお知らせする予定です。

③ 同窓会による学部生・院生対象の企画を支援していただける方の募集

同窓会では、メールとインターネットによる卒業生と学部生・院生との交流を盛んにしていく予定です。

そのため、「感性とアイデアを生かして交流の企画・遂行を支援していただける方」を同窓会HPで募集しますので是非とも応募をお願いします。

卒業生のみなさんへ

① E-mailアドレス登録のお願い

メールとインターネットを使った同窓会会員交流を盛んにしていく予定です。現在、同窓会理事、評議員、ならびに50周年記念募金に賛同の方々の中でメールアドレスをお知らせいただいた会員の方々には、メール使用許可をいただいています。

今後、メールを利用して同窓会HPの新規記事掲載などをお知らせする機会が増えていきますので、差支えが無い方はメールアドレスを同窓会事務局宛にお知らせください。

② 学部1、2回生対象の企業見学会を仲介していただける方の募集

企業見学会を定期的で開催していく予定です。お勤めになっている企業など見学の仲介が可能な方は、是非その旨を同窓会事務局宛にご一報くださいますようお願いいたします。

同窓会事務局メールアドレス：dousoukai@office.eng.osaka-cu.ac.jp

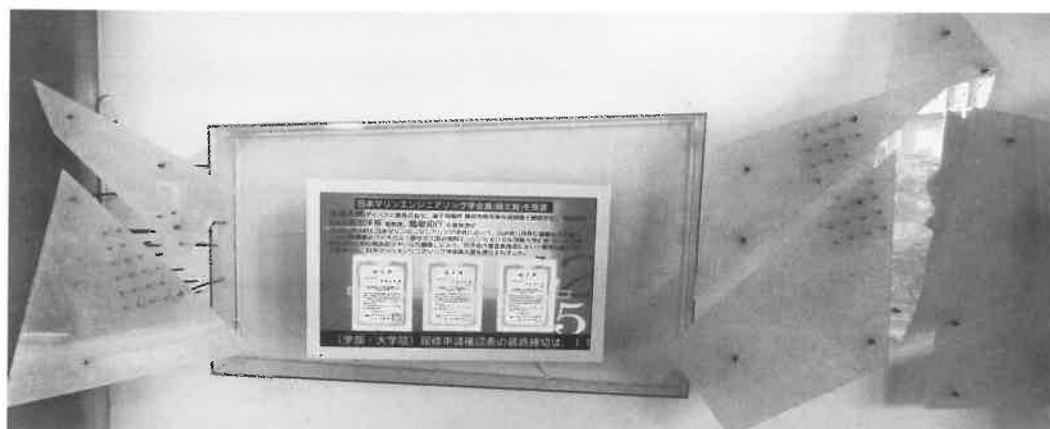
工学研究科・工学部だより

電子掲示板「デジタルサイネージ」を新設

工学研究科・工学部の広報活動を活発にする一環として、大嶋研究科長の発案で工学部玄関に電子掲示板（デジタルサイネージ）が設置され、工学研究科・工学部にまつわる案内、表彰・業績、講演会・行事などの情報をビジュアルに即時的に紹介しています。

デジタルサイネージで広報された賞・業績の例（2010年4月～10月）

専攻・学科	受賞者	賞・業績	授与団体・会等
電子情報	土井将登 (M) 阿多信吾 (准教授) 岡育生 (教授)	「情報通信マネジメント研究賞」	電子情報通信学会情報通信マネジメント研究専門委員会
化学生物	西 弘泰 (D)	「学生講演賞」	日本化学会第90春季年会
化学生物	佐藤絵理子 (特任講師)	「優秀講演賞 (学術)」	日本化学会第90春季年会
都市	Craig Farnham (D) 中尾正喜 (教授) 西岡真稔 (准教授) 鍋島美奈子 (講師)	「日本冷凍空調学会学会賞」	日本冷凍空調学会
都市	竹岡佑介 (M)	「優秀発表賞」	平成22年度土木学会関西支部年次学術講演会
都市	中村和晶 (M)	「優秀発表賞」	同 上
都市	堀嗣輔 (M)	「優秀発表賞」	同 上
電子情報	南繁行 (教授)	「日本電気協会功労賞」	社団法人日本電気協会
化学生物	小島誠也 (准教授)	「The APA Prize for Young Scientists, 2009-2010」	アジア・オセアニア光化学協会
都市	中尾正喜 (教授)	NEDO研究開発に採択	NEDO (新エネルギー・産業技術総合開発機構)
化学生物	乾 匡志 (M)	「エクセレントポスター賞」	第56回高分子研究発表会
化学生物	北川大地 (M)	「最優秀学生発表賞」	2010年光化学討論会
化学生物	中澤 隆 (D)	「ベストポスター賞」	第59回デンバー-X線国際会議
都市	黒木宏一 (都市研究プラザ)	「日本建築学会奨励賞」	日本建築学会
都市	東田 淳 (教授)	「優秀研究賞」	防災科学研究所
都市	山口隆司 (教授)	「優秀研究賞」	同 上
都市	松村政秀 (講師)	「優秀研究賞」	同 上
機械物理	高瀬秀樹 (ダイハツ) 高田洋吾 (准教授) 脇坂知行 (名誉教授)	「日本マリンエンジニアリング学会賞 (論文賞)」	日本マリンエンジニアリング学会
機械工学科	大道崇文 (4回生)	「Aqua Robot Compe tition」第2位入賞	Techno-Ocean2010 (TON)
電子情報	向井孝彰 (教授)	「電子情報通信学会フェロー」	電子情報通信学会



電子掲示板

工学研究科の「オープン・ラボラトリー」

工学研究科は、産業界、社会との活発な交流を通して本学の基礎研究のさらなる発展を期するとともに、有機的な「産」・「学」・「官」のパートナーシップを築き、萌芽的・挑戦的な応用研究の開拓によって、大阪市を中心とする地域に密着した新産業の創生と育成、都市大阪の再生に積極的な役割を果たすことをめざして、「都市・環境」、「新エネルギー」、「ナノ領域マテリアル・バイオ」、「IT活用」などの重点研究部門についての最新の研究成果を「新産業創生研究センター」、「大阪産業創造館」との共催で、“出前”研究室（オープン・ラボラトリー）という形で広く社会に発信しています。

「オープン・ラボラトリー」は、2003年9月に発足以来、今年まで下記のような情報を発信し、多くの地域企業に支持され、マッチング実績を上げています。

詳しくはオープン・ラボラトリーホームページ (<http://geo.civil.eng.osaka-cu.ac.jp/OpenLab/>) をご覧下さい。

—過去の“出前”研究室—

- 第1回～第3回：サステイナブル都市づくり研究
- 第4回～第5回：エネルギーテクノロジーの共創へ
- 第6回～第7回：バイオインスパイアド・テクノロジー
- 第8回～第9回：材料化学とナノテクノロジー
- 第10回～第11回：材料の「構造改革」から「知的」な材料へ
- 第12回～第13回：感性と知性の情報処理
- 第14回～第16回：自然災害に強い安全な都市づくり
- 第17回～第19回：エレクトロニクスのフロンティアを拓く
- 第20回～第21回：未来社会のIT
- 第22回～第24回：やりくり大阪
- 第25回～第27回：明日を拓くロボットテクノロジー
- 第28回～第31回：より良い生活を支えるマテリアルの開拓
- 第32回～第34回：都市環境新生に関するコア技術
- 第35回～第36回：医療と製薬への工学的アプローチ
- 第37回～第38回：エネルギー貯蔵・変換技術の研究最前線
- 第39回～第41回：材料の“知的機能”とその応用
- 第42回～第43回：画像処理と表示
- 第44回～第45回：大阪市立大学 複合先端研究

機械工学科の近況

佐藤 嘉洋



同窓会会員の皆様におかれましてはご健勝にて益々活躍のこととお慶び申し上げます。このところ世の中には停滞感が漂っておりますが、そんな空気を吹き飛ばす元気で知恵のある若者を世に送り出すべく、機械工学科教職員一同日々奮闘しております。

恒例によりまして機械工学科の近況を報告させていただきます。人事面では、3月31日付けで動力システム工学分野の脇坂知行教授が定年によりご退職されました。4月1日付けで流体工学分野の脇本辰郎講師、動力システム工学分野の高田洋吾講師のお二人の先生が准教授に昇任されました。また、今津篤志特任講師が機械力学分野に着任されております。

工学部学科再編から2年目を迎える新しい機械工学科へ57名の新入生を迎えることができました。大学院では前期博士課程の入学者が38名、後期博士課程の入学者は2名(内、社会人特別選抜入学1名)でした。卒業・修了生の進路ですが、学部4回生30名のうち大学院進学者が21名(他大学大学院1名)、企業・公務員等への就職が6名、その他3名です。また、大学院の前期博士課程2回生38名は、企業等への就職が36名で、その他2名です。来春、卒業・修了予定学生の就職状況ですが、ご多分に漏れず厳しい状況でしたが、何とか就職希望者のほぼ全員の内定が決まりました。今後も厳しい状況が続くことが予想されます。学生の就職につきましては会員の皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最近、市と府の関係が取り沙汰されておりますが、大学の本務である教育と研究に専心することが肝要と考えております。会員の皆様におかれましては、これまでも増して一層のご支援・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。(工学研究科教授・機械物理系専攻長兼機械工学科主任教授)

表紙絵作者の略歴

1937年：岡山県生まれ
1962年：大阪市立大学工学研究科修了
2001年：大阪市立大学工学部教授を定年退職

題名は「UEサッカー選手権を待つウイーン」で、2008年にウイーンに旅行した折、宮殿前の広場に野外スクリーン用のテントが設置されていて、そのコントラストが面白いと描いた作品です。平成22年泉佐野市民展にて市議会議長賞受賞。」

卒業後六十年!!おめでとう!

村田 昭

我々同窓生は、ここ10数年 毎年同窓会を開催し、旧交を改め合っていますその模様を“同総会だより”に載せていただき、同好の士の参考にして頂ければ幸いです。願ひ投稿いたします。

23機会意気盛ん 私共は、今を去る60数年前、昭和23年に都島工業専門学校機械科を37名で卒業いたしました。

夫々苦節数十年、いまや悠々の人生を穏やかに過ごす存命の20名。とはいえ、齢81~83歳、いささか齢は争えず今年同窓会出席は9名。同窓会は“23機会”と名づけここ数十年毎年一回は必ず開催きっちり続いています。ここで寄せ書きの文言を採録し、その意気盛んなところを披露したいと思います。

*八十路踏み、紅葉期迎え友と呑む、又楽しからずや。
*お迎えがきた時は、「人生これで半分過ぎたところだ」と追い返せ。 *皆様の元気な顔を見て嬉しい!! *夏には中国に海外旅行してきました。

*エバーヤング!! *5月にはハワイへ! *子供たちはあと5~6年生きとってやというが、5~6年で殺されてはたまらんわい。 *来年も元気に会えることを楽しみに!
*卒業後六十年!!おめでとう.....

*そんなことで今後も続けます “forever 23機会!!”
(機械・昭和23年卒)



近況報告

古林 通孝



卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。私は平成6年に機械工学科を卒業後、Hitachi日立造船株式会社に入社し、今日に至るまで、主に一般廃棄物の焼却処理に関する研究開発に従事しております。一般廃棄物とは、いわゆる家庭から排出されるごみなどであり、その80%弱が焼却処理されています。ここで、廃棄物処理の第一義的役割は、公衆衛生の観点から、安全かつ確実に処理することにあります。そのため、焼却処理では、廃棄物を完全燃焼できる焼却炉や燃焼排ガスを無害化する排ガス処理システムなどが必要不可欠であることから、私は17年間、これらの製品開発

や性能向上に励んできました。また、最近、低炭素社会・循環型社会形成も要求されるようになり、このような流れの中、どうすれば焼却処理において発電効率を向上させることができるか、日々悩んでおります。

大学で学んだ力学系に代表される基礎学問はとても役立っています。ただ、このように自分の専門分野は衛生工学へと様変わりしまして、さらにこの分野の知識・経験を活かし、技術士（衛生工学部門、総合技術監理部門）や工学博士も取得しました。

話は変わりますが、一昨年、リクレーターとして本校を訪れたことが縁で、今回の機会をいただくことになりました。その帰り道、構内の飲食店であっさり系の復刻版レモンライスを賞味しました。いかがでしょうか？

最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（機械・平成6年卒・日立造船株）

近況報告

神藤 拓也



平成9年3月に大学院を卒業して以来、早いもので10年以上の月日が流れました。学部生での3年間、そして内燃研に入ってからの3年間がとても懐かしく思い出されます。

私は巨大なものor微小なものor複雑な制御のものを志向して重工メーカーに入社

し、それ以来水門一筋にまい進しております。入社前には水門という言葉は辞書のなかの一単語でまったく気にも留めておりませんでした。今では町中をドライブするだけでもあちこちにあることに気づかされます。

水門は鉄鋼構造物としては橋梁・煙突と並んで非常に大きな製品であり、小さなものでも2m四方、大きいものだと幅50m以上にもなり、これを製作精度数mm、あるいは動作精度数mmという品質で施工しなくてはなりません。内燃研にいたころの研究内容とは全体の大きさに対する精度の桁がまるで違っており、日々精進の連続です。

特に構造力学や流体力学をはじめ学生時代に学んだ（つもりだった）ものが、実務ではまるで理解が不足しており、今でも学生時代の教科書が手元から離すことができません。授業での使用頻度が低かった機械工学便覧（B1編とB2編）は、今では困った時のバイブルです。

現在、公共事業の縮減、あるいは脱ダムなど水門をめぐる環境が大きく変わろうとしています。その一方で戦後あるいは高度成長期に設置された水門が設置後50年の寿命を迎えようとしており今後の問題となっています。私の最近の施工品目でも水門の延命・あるいは取換が多くなってきており、自分の職務に対する責任に身震いがする思いです。

最後になりましたが、在学中お世話になりました先生方や諸先輩、研究室のメンバー一同、そして同級生諸君の今後のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

（機械・平成7年卒・同9年前期博士課程修了・日立造船株）

電気工学科

電気工学科の近況

辻本 浩章



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。電気工学科の主任を仰せつかった辻本です。前回の主任は5年前に勤めさせていただきました。わずか5年ですがその間に4名の新教授をお迎えしました。工学部の再編が始まり、2年目となりました。電気工学科としての最後の学生は早くも3年生になり、一部の学生は就職の話をするようになっていきます。電気工学科の学生が3年生4年生といますので、従来からの講義が日々行われていますがその講義も今年限りで終わるものが多くなり、若干の寂しさを感じています。しかしながら、相変わらずの忙しさには変わりなく時間が流れていきます。

電気工学科の5分野は、情報工学科に3分野、電子・物理工学科に2分野と分かれてそれぞれの教育を担当することになっていますが、大学院の体制はこれまでと変わらず、電気工学講座、応用物理学講座、情報工学講座の3つの講座で学生の研究教育を行っています。

昨年度には草開先生が定年退職されました。過去5年間の人事が凍結されていましたが、

今年度は新たに名古屋大学から白藤先生が材料計測分野の教授として10月よりお迎えすることができました。やっと5分野の教授が揃うことになりました。現在の電気工学科の教員は電磁気学分野（南教授、武智講師）、電子回路学分野（會田教授、高橋准教授）、光電子工学分野（向井教授、宮崎准教授）、材料計測工学分野（白藤教授、大島特任准教授、田中助教）、電磁デバイス分野（辻本教授、村治講師）の11名体制で研究教育を進めています。

今年度の学部卒業予定者は27名でそのうち大学院進学予定者は18名です。一方後期課程への進学者は内部からゼロでした。辛うじて10月から社会人1名が入学されましたが相変わらず少ないのが現状です。

今年の就職については、リーマンショックの影響が益々厳しさを増して昨年度以上に厳しいと感じています。昨年度と同様に求人数が半減したままで回復していない状況が続いています。今年度修了卒業予定のうち多くの学生の就職が決まりほっとしていますが、残念ながら修了予定の修士1名、卒業予定の学部数名の進路が決まっていない状況です。反面、電気工学科にとって順風を感じることも多くなりました。と

言いますのは時代の流れが大きく変化し、地球温暖化対策、エコ等が多く聞こえるようになり、ハイブリッド自動車、電気自動車、太陽光発電また電気エネルギーの有効利用等により電気工学が再び脚光を浴びるようになりました。特にモータの復活が大きいです。その影響でこれまで求人がなかった複数の自動車会社からも求人が来るようになり、大学院生が2名就職することになりました。

末筆ながら卒業生の皆様の益々のご発展をお祈り致します。
(工学研究科教授・電気工学科主任教授)

近況報告

西山 哲弘



昭和62年に南海電気鉄道(株)に入社し、当初18年間は鉄道の電力関係業務に従事し、その後不動産部門において開発・保守関係業務に携わり、現在に至っています。

学生当時、情報関係の業務に興味があったため、電気関係の業務が幅広くある鉄道会社に入社しましたが、結局畑違いの業務ばかりを行うこととなりました。しかし、そのことを後悔することもなく現在までやってこれたということは、これまで携わってきた業務が自分に合っていたのだらうと考えています。

最近、鉄道では「駅ナカ」商業施設が脚光を浴びています。当社でも駅ナカ、高架下において商業施設新設・リニューアル等の計画、施工を積極的に行っています。その際、最近は特に環境への取組みが求められるようになってきました。また、「省エネルギー法」が平成21年に改正され、既存ビルについても従来以上に省エネに関して配慮する必要が生じてきています。その結果、空調機の更新、太陽光発電・LED照明等の導入を検討する機会が増えてきており、少しは学生時代に得た知識を生かすことができているのではないかと考えています。

最後になりますが、環境・省エネには多方面の技術が要求されます。それらへの取組みを含め同窓生の皆さまが様々な場面で活躍されますことをお祈りしています。

(電気・昭和62年卒・南海電気鉄道(株))

近況報告

奥井 博司



皆様いかがお過ごしでしょうか？大学を卒業して19年が経とうとしています。しばらく同窓会とは疎遠となっておりますが今回同窓会報への投稿の機会を頂き大学時代を懐かしく思い返すとともに同窓会の一員であることを改めて認識することができ非常に嬉しく思いました。

さて私の近況ですが、就職後は一貫して家電メーカーでエアコンの設計に携わってきました。配属当初は研究部門でエアコンの省エネ性能や快適性能を向上させるための要素技術の開発を行いました。大学で学んだことに加えて足りないことや新しいことに対しては自分で勉強して理解を深めました。そうして自分が担当した技術が商品に搭載された時の達成感は今でも忘れられません。その後、商品設計部門へ異動となりました。商品設計部門での仕事はバラツキ設計やコスト管理など研究部門の時ほどアカデミックな内容ではありませんが、強い商品を市場に送り出すために関連部署の協力を頂いて日々懸命に取り組んでいます。

就職してから今まで好不況や環境問題への意識の高まりなどいろいろな社会環境の変化がありました。また特に近年では開発、製造拠点の海外へのシフトなどグローバル化の進展を日々肌で感じています。私が学生の時は殆ど意識していなかったことですが、今では海外留学も増えていると聞きます。これからは海外の学生との交流がごく普通のことになるかもしれません。若いうちからグローバルな視点で物事を考える習慣が必要であると感じるこの頃です。

最後になりましたが、皆様の一層のご活躍とご発展を心よりお祈り申し上げます。

(電気・平成2年卒・同4年前期博士課程修了)

応用化学科

応用化学科の近況

小槻 勉



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。すでにご存じかと思いますが、平成21年4月から応用化学科とバイオ工学科を統合し、新しく化学バイオ工学科(定員56名)として発足しましたので、現在、応用化学科に在籍する学生は、3回生30名、4回生30名と

なっています。

学部学生の進路については、卒業予定者30名に対して約75%の学生が他大学を含めて大学院前期博士課程への進学を予定しています。また、就職希望者の中には、まだ進路に迷っている者もいますが、公務員を含めてほぼ全員進路が決まっています。

応用化学科は、昨年度と同じ10名の教員体制で運営しています。応用化学科として活動するのは、応用化学科に入学してきた学生を全て送り出す平成24年3月までの予定です。それ以降は、化学バイオ工学科の学生を輩出することになりま

す。応用化学科を卒業された皆さんは、一種の寂しさを感じられると思いますが、応用化学科の伝統と遺伝子は、化学バイオ工学科へと引き継がれますのでご安心下さい。

大学院は、実質的な大学院重点化を目指してすでに工学研究科では4専攻となり、応用化学科に所属していた教員は、平成14年4月から全員化学生物系専攻に所属しています。したがって、新学科の運営母体にそれ程大きな変化はありませんので学生達に与える影響も必要最小限に止めることができるものと考えています。この大学院後期博士課程には、社会人特別選抜制度と云うものを設けています。時間の使い方を工夫して職場で働きながら大学院でスキルアップと学位取得を目指したい卒業生の方々には是非利用して頂きたい制度です。今後ともご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。(工学研究科教授・応用化学科主任教授)

運命的出会いの合成ゴム開発

竹村 泰彦



私は天高卒業後、二期校であった名工大(卒研は浅見研。当時の名工大は東海3県以外の高校の卒業生が7割超の全国区であり、今年1回の同期会をもって)を経て大学院修士課程を地元大市大(在りし日の井本(稔)先生も見えた)大津研(青木先生や山田先生が見えた)で過ごした。大津先生の紹介で昭和43年に半官半民の日本合成ゴム(現JSR、以降JSR)に入社、35年を勤め終え早7年を経た。

思い返してみると浅見研では先輩の依頼を受け、メインのアニオン重合研究(スチレン(S)やブタジエン(B)の重合が中心)を横目に重縮合を研究したため、大津研では看板のラジカル重合研究を選択し、Bの重合も行っていた。JSRでは初め配位重合のブタジエンゴム(BR)も研究したが、主に乳化重合(ラジカル重合)アクリロニトリルブタジエンゴム(NBR)や特殊SBR等特殊ゴム開発を中心に研究所や現場の、更には自動車や電機・電子関連ユーザー等の協力も得て多くの成果を上げ得た。その後アニオン重合SBRやステレオブロックBRの水素添加(水添)物開発を主導したが、ここでも多くの成果を得た。このように長い間田に関する重合やその水添に携わってきたが、大学の研究室時代から何か見えぬ糸に繋がっていたような気がする。その間二つの大学や高校の同窓と言うだけの関係に何度も助けられた思い出がある。

JSR最後の約10年間は本社兼務でゴム関連の学会、業界との技術的窓口として活動、多くの大学の先生や競合企業の技術者初めあまたの友人に巡り合えた。また、二つの大学のリクルート活動も20年ほど続け(この間大市大工学部も一時の荒れ模様から綺麗になった。)、多くの先生方に知己を得た。

JSRやこれらの方々への支えもあり定年前に日本ゴム協会会長を拝命、その関連で今もゴム技術フォーラム代表を仰せつかっている。そして、今年IISRP(国際合成ゴム生産者協会)からは権威あるTech. Awardを授与された。これらは自分一人の力で成し得るものではなく、多くの先輩、同僚、友人に支えられたものであり、皆様方大変感謝している。

このようにゴム一筋の人生を考える時、全て自分で切り開いてきたと言うより、周りの人に活かされてきたと言う感が強い。大市大工学部には、自然科学発展への寄与はもとより学生の人文科学的素養涵養にも尽力願うとともに、工学部同窓会の発展を祈念して雑文を終えたい。

(応化・昭和43年大学院修士課程修了・元JSR株)

近況報告

大北 雅



工学部同窓会設立50周年おめでとうございます。私は昭和48年に応用化学科を卒業、同窓会節目の本年、37年余の会社員生活を卒業しました。思い返すと大学紛争の影響で入試があるかないか危惧された昭和44年に入学しましたが、大学本部封鎖で入学式中止はいうまでもなく、

授業が始まったのが秋頃、卒業式も紛争の影響で流れ、卒業証書を個人毎に教授室で授与されたように記憶しています。更に就職早々石油ショック、また退職前にはリーマンショックと学生時代も会社員時代もスタートとゴールは大きな時代の節目に遭遇しましたが、杉本キャンパスの4年間、会社員時代はそれなりに充実していたように思います。先生方や先輩方の研究室での熱いご指導のみならず、昼休みのサッカーやソフトボール、教授宅でのすき焼きパーティ、春秋のハイキング等、キャンパス内外でのイベントが鮮明に思い出されます。

会社では旧大阪工業技術試験所(現産業技術総合研究所)の進藤博士発明のポリアクリロニトリル系炭素繊維の工業化研究、用途開発、製造、販売に携わりました。当初炭素繊維は優れた性能を有するものの高価格で、ゴルフシャフト・釣竿等のスポーツレジャー向けが主な用途でした。その後航空・宇宙分野、一般産業向けへと用途が拡大し、今や航空機や風力発電等に欠くことのできない材料として、世界の70%を日本がシェアする代表的な日本発の高機能素材に育ち、その一端に携わることができたことは技術者としての財産となりました。

現在、セカンドライフをエンジョイすべく充電中ですが、自己研鑽と共に何か地域や社会に貢献できるよう取り組みたいと考えています。

最後に皆様方のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

(応化・昭和48年卒)

建築学科の近況

宮本 佳明



この1年は政権交代もあり、建築業界にも大きく影響与えるような出来事が多々ありましたが、卒業生の皆様にはますますお元気でご活躍されていることと存じます。

さて、昨年度工学部が10学科体制から6学科体制となり、それに伴い定員が28名から34名となって再スタートした新建築学科ですが、本年度は35（内女子8）名の新生が入学してきました。また大学院では、昨年度より建築士受験資格要件の見直しに伴いインターンシップ制度が始まりましたが、卒業生の皆様のご協力もありお陰さまでようやく軌道に乗せることができました。

学部4年生の進路状況については、32名のうち本学大学院進学14、ゼネコン3、ハウスメーカー3、設計事務所2、他大学大学院進学2ほか計28名が内定しております。

また、大学院入試では近年の受験者数の増加傾向がより顕著になりつつあります。特に外部からの受験生が急増しており、分野によっては競争倍率が4倍を超えて学内からの受験生に大きな影響を与えています。今後もこのような状況が続くのが心配されるようです。一方で後期博士課程への入学者数は伸び悩んでおり、昨年度定員を削減したところですが、ポストク問題等先行きが不透明な中で充足率を回復するところまで至らないのが現状です。昨年度より3年分の授業料で最長6年の間に学位取得を目指す長期履修制度も整いました。この機会に皆様も母校でキャリアアップを図ることを是非ご検討頂ければと思います。

また教員の動向ですが、長年に亘り建築環境工学分野において教育と研究にご尽力されました大倉良司先生が、昨年度3月に定年退職されましたことをご報告しておきます。

（工学研究科教授・建築学科主任教授）

「故川村純夫名誉教授 お別れの会と一周忌法要」

岡崎 充隆



平成21年8月16日に川村純夫名誉教授がご逝去され、早くも1年が過ぎました。昨年の9月29日には、川村研究室の卒業生を発起人として、「川村純夫先生お別れの会」を執り行い、川村研究室の卒業生・風工学分野の研究者・大学の先生方など100名を超える多くの方々の御

参列を頂きました。

当日は天気予報の降水確率が高く、空模様心配されましたが、幸い雨は降ることなく、多くの方々にお集まりいただきました。会ではご友人を代表して、工学院大学の北林興二教授にお別れの言葉を頂きました。その中で、先生がアメリカコロラド大学に留学されていた時のエピソードや、そのお人柄についてご紹介頂きました。その後、代表発起人の都築周氏のご挨拶、参列者の皆様の御焼香と、会は肅々と執り行われました。多くの方々に集まって頂いたことは、生前より賑やかなことが大変お好きであった先生にも喜んで頂けたのではないかと思います。

また、今年の7月3日には、京都市西京区のは是住院にて一周忌法要が営まれ、先生のご親族、ご友人、大学の先生方として卒業生代表の方等、約20名が参列されました。

一周忌法要は、あいにくの小雨の中となりましたが、新緑が一層深みを増して感じられました。遺骨が納められている是住院は、京都市西京区の閑静な住宅地にあり、法要はこのお寺の立派な本堂で行われました。是住院のご住職は大変気さくな方で、偶然にもご住職と先生の奥様が、同じ小学校を卒業されており、小学校当時の話をまじえた説法を授かりました。その後は雨もあがり、参列者一同は先生の墓に向い、ご住職の計らいで再度墓前での焼香を行い、法要は無事終了致しました。近くにお出かけの際は、是住院を訪ねて頂ければ、気さくな住職に快く案内して頂けるのではないかと思います。

（建築・昭和62年卒・㈱長谷工コーポレーション）

*この原稿は昨年依頼したのですが、編集員の手違いにより掲載できませんでした。加筆の上、再度寄稿頂きました岡崎様にお詫び申し上げます。（編集委員：谷口徹郎）



川村純夫先生お別れの会

近況報告

岡崎 大輔



平成13年に学部を卒業して以来、10年の月日が流れ既に30歳を過ぎた今でも、この不況下のもとで働ける現状をありがたく思っています。また、同窓生の皆様も、お元気で活躍のことと存じます。

私は現在、建設系のメーカーの開発部にて、新製品の開発、および特殊構造物の構造検討等の設計を行っております。メーカーとしては近年の原材料の原価高騰の中、以前より品質を求められる時代となり四苦八苦している状態であり、その中で勝ち抜いていくには技術力のPRが欠かせません。そんな状況下での開発部門に求められる新技術の確立は大切なものとなっており、私もその一端に携われればと日夜働いております。また、入社当時は大阪に配属でしたが、途中プロジェクトの発足によ

り6年間東京で勤務しました。そこではまた建築分野にとどまらない業務も経験できて、自分の知見を広めることができました。

現在では古巣の大阪に戻ってきて開発業務の中でも耐風設計を中心に研究を行っており、大阪市立大学にて風洞実験を行うこともあるため、卒業して10年経った今でも母校に足を運ぶことが多いです。学生時代の頃と比べると校内の施設もだいぶ変わっており、時間の流れを感じる事もある一方で、自分が学生だった頃に勉学に励む中、サークル活動やいろいろ遊んだ事等はいい思い出です。

建設業界は、公共事業の大幅な削減等によりまだまだ厳しい状況を打破できない状態です。その中で新技術の開発に携わることで社会に貢献できればと思っております。最後になりましたが、皆様の益々の御発展と活躍を心よりお祈り申し上げます。

(建築・平成13年卒・那須電機鉄工(株))

都市基盤工学科

都市基盤工学科の近況

山口 隆司



卒業生の皆様におかれましては、お元気にご活躍のことと推察いたします。私は本年度の学科主任を仰せつかっております。

ご存じの方もおられると思いますが、現在、学科再編の過渡期のまっただ中にあり、都市基盤工学科には3回生と4回生が在籍し、都市基盤工学科と環境都市工学科を母体とする、新学科の都市学科には1回生と2回生がそれぞれ在籍しています。教員としましては、都市基盤工学科としての卒業生を送り出すことに全力を傾ける傍ら、新学科がこれまで同様に社会から必要とされる学科であるべく新しい教育カリキュラムのもと教育・研究活動を鋭意展開しています。

昨年度末には、材料および河海工学分野の角野昇八先生が、ご定年を目前にご病気のため急逝されました。この場をお借りして、改めて、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

人事に関してですが、本年4月1日より、角野昇八先生の後任教授として、重松孝昌准教授が教授に昇任され、河海工学分野を担当されています。都市基盤計画分野の日野泰雄教授は、本年度も引き続き、工学研究科副研究科長としてご活躍されています。

学生の進路に関する状況ですが、4回生については、進学17名、公務員2名、民間会社等2名、大学院生については、公務員3名、民間会社等12名となっています。就職難と言われている中で多くの求人があること、いわゆる発注者への就職が多いこと、地域のために働きたいという学生が多いことなどが最近の特徴です。

最後になりますが、皆様方のますますのご活躍をお祈りす

るとともに、都市基盤工学科および都市学科の発展のために、引き続きご協力いただきますよう、都市基盤工学科教員一同を代表してお願い申し上げます。

(工学研究科教授・都市基盤工学科主任教授)

近況報告

志村 友行



皆様、いかがお過ごしでしょうか。昭和63年に大学院を修了し、建設会社に就職してはや23年、学部卒業から数えるともうすぐ四半世紀が過ぎようとしています。私自身、気持ちは当時から不変のつもりなのですが、現実には風貌は変化し、体力は衰え、家庭では多感な時期の子供を抱え・・・と、確実に進む時の流れを実感しております。学生時代は河海工学実験場で水を相手に奮闘していた自分ですが、就職後は建設現場、土木設計、研究開発等を経験し、今では水とは180度異なる岩盤や粘土を相手に、原子力部門で放射性廃棄物の処分に関わる業務と日々奮闘しています。

放射性廃棄物は、電気の廃棄物としてテレビ等でもその処分の重要さと技術的な安全性について広告されており、皆様も一度は耳にされたことのある言葉ではないかと思います。放射性廃棄物は、生活環境から長期間にわたり隔離する必要があるため、地下300m以深の深い安定した地層中(岩盤)へ処分(地層処分)することが考えられており、技術的検討においては千年から万年に渡る安全性についての議論がなされています。

私自身も仕事柄、普段は千年・万年の時間軸の中に身を投じておりますが、四半世紀の社会人人生の時間軸との間の奇妙

なギャップと、さらには仕事への責任、忙しさ、過酷さも加わって、ときに時間的間隔が麻痺する日々を過ごしている状況です。

一方で、昨今の建設業界を取り巻く厳しい状況のもと、明日の仕事の獲得が叫ばれる中で、このような長い時間を見据えた業務に従事できることは、貴重な経験を積ませていただいていると感じています。

最後になりましたが、今後の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

(土木：昭和61年卒・同63年前期博士課程修了・㈱大林組)

近況報告

井上 裕司



が、勝手ながらここでは私のプライベートな話をさせていた

平成9年に建設コンサルタント入社してから、早や13年経ちました。入社以来、一貫して構造物の維持管理業務に携わり、近年では流行のアセットマネジメントも行っています。この後は建設コンサルタントにおける維持管理の最新情報が聞けると期待されるかもしれませんが、

できます。

実は、現在、家を建てています。木造軸組みの2階建てですが、吉野杉を使った長期優良住宅です。まだ、上棟式が終わったばかりで構造が出来あがっただけですが、すでに満足感に浸っており、竣工が楽しみでなりません。

大抵の方と同じく、私も初めは住宅展示場や住宅メーカーに行きました。しかし、住宅メーカーの営業マンとは価値観や視点が全く異なりフラストレーションが溜まるばかり。そのような中、インターネットで興味深いホームページを見つけ、すぐにアポを取りました。その方は日ごろから今の住宅業界に強い疑問を持たれている方で、話しているうちに「この方は信頼できる」と確信しました。この信頼できるパートナーを通じて、希望に合った良い施工業者と設計士を紹介していただき、私の希望を超える家を設計することができました。このような回り道をしたので、土地の購入から着工までの間、数十万円はローンを余分に支払いましたが、それでもおつりが出るぐらい建築費を抑えつつ、良い家を建てることができました。

今回の自分の家づくりを通じて、ビジネスにおける信頼関係の重要性とコンサルタントの価値や役割について改めて考えさせられました。

(土木・平成7年卒・同9年前期博士課程修了・中央復建コンサルタント㈱)

応用物理学科

応用物理学科の近況

熊谷 寛



た。大学を振り返り、自省の上にはか築けない最高のクライテリオンによって規制された自由の輝きが大学の誇りと述べられています。

その自由な雰囲気が脈々と受け継がれている電子・物理工学科では、今春42名の2期生を迎えました。「君たちの夢は何？」の質問に、リーマンショック以降の厳しい就職戦線の影響か、「〇社に入ることです。」という回答が複数ありました。むしろ〇社で何をしたいのか、たとえ傾いても決して揺るがない人生の夢をこの自由の雰囲気の中で見つけてほしいと願っています。

その就職ですが、中山正昭教授と金大貴准教授のきめ細かい就職指導により、就職希望者のほぼ全員に内定を頂くことができました。修士修了予定者のうち後期博士課程進学が1名、企業等への就職内定が17名です。また学部では3名が就職予定ですが、20名は本学大学院へ進学します。後期博士課程修了予定者はすでに防衛省に内定し、3回生から大学院へ

の飛び級は昨年度の瀧田佑馬君に続き、第2号が出そうな状況になっています。

学科創設当時18名であった教員数は現在専任で10名にまで削減されていますが、少ないながらも学問に対する自由な雰囲気を持し、学科発展のシナリオを模索しているところです。応用物理学科の良き伝統を継承していくためにも、引き続き工学部同窓会の皆様のご支援とご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

(工学研究科教授・応用物理学科主任教授)

近況報告

川畑 史郎



つくば市は緑に囲まれたとてもものんびりとした田舎町です。週末になると子供と一緒に筑波山登山や温泉巡りをエンジョイしています。

さて、私が勤務している産総研は研究者2000人以上を有する国内最大級の研究所です。私は、主として超伝導デバイス

の量子輸送や応用に関する研究を担当しています。5年前より海外に長期滞在する機会を与えられ、オランダ、スウェーデン、フランスにて1年半ほど研究生活を送ってきました。世界的に経済状況が悪化していることもあり、どこの国でも科学技術予算は年々減少の一途をたどっております。私が滞在したフランスの某国立研究所では、予算不足のためオフィスの天井の穴修理すらできない状態でした。このような状況のため、若い研究者がパーマネントポストを得ることが困難になっており、科学技術分野における今後の若手人口の減少が世界的に危惧されています。しかしながらこの厳しい時代だからこそ、新たな突破口を見出す絶好のチャンスであるとも言えます。誰にもない独自のスキルを確立し、それを多方面に活かすことができれば次世代に繋がる新たな可能性が開けるのではないのでしょうか。ぜひ若手の皆様には、新たな方向性を自らの力で切り拓けるよう、いろいろなことに積極的にチャレンジして頂ければと思います（もちろん我々中堅世代も）。

（応物・平成10年博士後期課程修了・産業技術総合研究所）

近況報告

宮本 昌典



お久しぶりです。皆様いかがお過ごしでしょうか？時の経つのは早いもので、平成19年に修士を修了してから3年半が過ぎました。私は現在、携帯電話の交換機に使用されるソフトウェアの設計・開発・保守に携わっております。近年、携帯電話のネットワークはサービスの高度

化と経済化を目指してIP化される方向に動いており、私の参加しているプロジェクトもその1つとなります。交換機の主な役割は、音声電話やテレビ電話のような回線交換において発信者と着信者を接続すること、また留守番電話のようなネットワークで提供されるサービスを制御することであり、利用者が直接意識することこそ少ないものの、携帯電話というインフラの心臓部と言ってもよいものです。このため交換機のソフトウェア開発は、新しいサービスを早くから知ることができる面白さと同時に、品質が重視されるやりがいのあるものでもあります。

さて、研究室にいた頃と入社してからの共通点は「プログラムを作成」していることですが、この中で変わった点としては「正しく動作すること」だけでなく「誰にでも内容がわかること」を非常に重視するようになったところです。会社員としての仕事が大人数でのチームプレイであるため、自分の仕事について理解してもらうことが必須となるからです。物事を説明する機会が増える中で、研究室での経験、特に学会や研究会に頻繁に出席できた経験から「ものを説明する技術」を学ぶ機会を得られたことは大きな財産となっていると実感しております。

最後となりましたが、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。
（応物・平成17年卒・同19年前期博士課程修了・日本電気通信システム株）

情報工学科

情報工学科の近況

辰己 昭治



平成22年度の情報工学科は、留学生1名を含め、44名の新入生を迎えました。平成2年に新設されていますので、今年の新入生は21期生となります。情報技術は驚異的發展をなし、現代社会の基盤となっています。これは、第一線で活躍されている先輩諸兄、同窓生の方々の努力の賜物であります。今年の春の叙勲では、山下一美名誉教授が瑞宝中授章をお受けになりました。先生がなさってこられた永年の研究成果が、情報通信技術分野への貢献に大きく寄与されたと評価され、後に続く研究者・技術者たちへの励みとなっています。

パソコン、携帯電話、携帯情報端末、各種センサーなど情報の発信量は膨大となり、情報洪水のなかに埋没しそうな社会になりつつあります。そのためにも情報の伝送・蓄積・処

理を対象とする情報科学のさらなる発展が望まれています。情報工学科としても、デバイスからコンピュータのハードウェア・ソフトウェア、制御、通信技術、ネットワーク技術、情報処理と幅広い技術分野を習得し、自立した技術者・研究者の育成を目指しています。

教育体制として、昨年度と同じ15名のスタッフに、今年度はティティズインさんが特任助教として教育・研究に加わっています。また、以前から、本工学部電気工学科卒業生の富田孟氏、前谷治男氏に非常勤講師をお願いし、技術現場からの要望や製品化までのプロセスを知ることにより、勉学に生かせるよう計って頂いています。また、卒業生諸兄の本学科への教育支援をお願いいたします。

進路状況は、21名が本学大学院、1名が他大学院へ進学し、6名が就職、1名が本学研究生となっています。

最後になりましたが、皆様方の一層のご活躍とご発展をお祈りいたします。

（工学研究科教授・情報工学科主任教授）

近況報告

小林 雄士



皆様いかがお過ごしでしょうか。私は、この春、前期博士課程を修了し、神戸にあるカーエレクトロニクスメーカーに入社いたしました。入社後、様々な研修を受け、この度配属先が決定し、現在は慣れない業務に苦戦しながら日々過ごしております。

私が配属された先行システム技術部では、いままでに無い技術を開発し、車に新たな付加価値を生み出すために尽力いたしております。その過程として、最新の技術動向を探りながら、新たなシステムを考えるということは大学時代同様、社会人になっても変わらない部分であると感じておりますが、1つ違う点があります。それは、大学の時のように周りから色々と教えてもらえる環境ではないことです。今になって大学の頃の自分がどんなに恵まれた環境にいたかということの思い知らされております。社会の先輩として、学生の皆様には今一度そのことを認識していただきたく思います。

この春、公益財団法人日本生産性本部において発表されました今年の新入社員のタイプが「ETC型」となっていますが、その特徴として、コミュニケーション能力が不足しているとありました。しかし、私の周りの新入社員はコミュニケーション能力が高いため同期の仲も良く、初めての一人暮らしですが、寂しさを感じることもなく、入社後も友人たちと楽しい時間を過ごすことができている。車業界は、現在苦しい状況に置かれていますが、この友人たちと共に頑張っていきたいと思っております。

最後になりましたが、皆様のご健勝と益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

(情報・平成20年卒・同22年前期博士課程修了・富士通テン株)

近況報告

小林 巧



ようやく猛暑も収まり少し肌寒くなってきたこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

平成21年に情報工学科を卒業し、1年半以上が経ちました。研究室で同期の仲間と共に卒業論文を書いていたのを、昨日のこのように思い出します。卒業して

以来、学部の同期生とは会っておりませんので、学生時代を思い返しながら懐かしく思っております。

現在私は、(株)ダイヘンで半導体・液晶製造装置用搬送ロボットの開発業務に携わっております。在学中はほぼ毎日を部活漬けの生活を送っており、ろくに情報工学の知識も無いままで卒業してしまったのですが、会社の先輩方の助けを得ながら仕事をし、何とか慣れてきたところです。よく大学の先輩方から「学生時代にもっと勉強しておけば良かった」という言葉を耳にしますが、今まさにそのことを痛感しております。

半導体・液晶業界は、ノートPCや携帯機器等の情報家電関連の波に乗ってまだまだ発展すると言われていますが、実現するには飛躍的に生産性を上げる必要があります。従来の技術だけでは目標の達成は困難であり、技術の革新に挑戦しなければなりません。

まだまだ勉強しなければいけないことは多くありますが、今後色々な経験を積み広い視野を持ってロボットの開発に関する技術の革新に取り組んでいきたいと考えております。

最後になりましたが、皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(情報・平成21年卒・(株)ダイヘン)

バイオ工学科

バイオ工学科の近況報告

長崎 健



卒業生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。本学科においては、3月に11年間本学で教鞭を執られ「核酸化学の庭を満喫」された井上先生が退職されました。また、井上先生と同時に30名そして9月に1名、計31名がこの一年間で卒業しました。内15

名は本学大学院に8名が他大学大学院に進学し、8名が企業に就職しました。4月からは北村教授昇任、中西講師新規採用の人事異動があり計10名のスタッフで学科を運営しています。

大学全体としては、法人化という重要な節目を挟み5年間続いた前執行部が総入れ替えとなり、理系出身の学長のもと



新体制で新たな局面を迎えようとしています。昨今では、大学にとり教育と研究に加え地域貢献が重要視されています。これまで卒業生から「市大の産学連携活動は外から全く見えてこない」と多くの叱責を頂戴してきましたが、本10月からは産学連携推進本部が設置され本腰を入れ始めたところです。産業界で活躍されている卒業生には益々バックアップをお願いすることがあるかと思えます。また、我々が仕事上役

に立ちそうなことがありましたら何なりと相談して頂きたい
と思います。このように卒業生と学科との連携が益々大切と
なる中、昨年度末にはH17年、H19年につき第三回となる生
物応用化学科・バイオ工学科同窓会が開催されました。O T
も含め総勢93名が参集し、楽しいひと時を過ごしました（同
窓会の一コマを写真で添えさせていただきます）。卒業生・O T
からはこれから本学科が目指すべき教育・研究を考える上で
大変参考になる御意見を多数頂きました。次回はH23年12月
に開催される予定ですので、今回参加できなかった卒業生の
方も是非ご参加下さい。案内がお手元に届いていない卒業生
がおられましたら、是非学科まで連絡先をお知らせ頂きたい
と思います。

末筆ではありますが、卒業生の皆様の益々のご活躍をお祈
り申し上げます。

（工学研究科教授・バイオ工学科主任教授）

近況報告

高山 弘



皆様こんにちは、いかがお過ごしで
しょうか。私は平成20年3月に化学生物
系専攻修士課程を修了し、早いもので3
年が経とうとしています。この場を借り
て、学生生活でお世話になりました先
生、先輩、同期や家族にお礼申し上げま
す。

知的材料工学科

知的材料工学科の近況

澤田 吉裕



卒業生の皆様は元気にご活躍のこと
と存じます。大学では学科再編により知的
材料工学科として入学する学生がいなく
なり2年目を迎えました。したがって、
知的材料工学科には3年次と4年次の学
生のみが在籍しています。

まず、皆さんの後輩である在学生の状
況について簡単に報告しますと、今年の4年次学生は例年と
同様に10月末に卒業研究中間発表会で進捗状況を発表し、皆
それぞれに着々と成果を挙げており2月には先輩達と同様に
立派な卒業論文を完成してくれるものと期待しています。彼
らの内、7名が企業へ、1名が国家公務員への就職が内定し
ており、18名が本学大学院への、1名が他大学大学院への入
学試験に合格しています。

私は現在、化学メーカーで主に衣料や紙オムツなどに用い
られるスパンデックスの研究・開発に携わっています。スパン
デックスとは言い換えればポリウレタン繊維のことであり、
伸縮性素材として、皆様の身近なところでは下着やスポ
ーツウェアなどでお役に立っているのではないかと思います。

私は学生時代に研究職を志望していましたが、その職に就
いた今、想像していた以上に多くのことが学べる職だと実感
しています。弊部署の特徴として、研究テーマが事業化する
までのプロセスを一貫して担う体制をとっているため、高分
子や知的財産の知識、語学力や体力などが総合的に要求され
ます。私自身、事業化のスピードに対応しようと自己啓発に
努めてはいますが、やはりこれまでの勉強不足の感は否め
ず、周囲に遅れをとるばかりです。そのためか、今更ながら
勉強する楽しみを覚え、恩師から「おい、勉強しろー」と
言われ続けていたことが今では耳に心地良く残っています。

プライベートでは、マラソン、水泳、バレエといったアク
ティブな趣味を楽しむようになり、今では学生時代よりも健
康体です。このように仕事だけでなく趣味の面でも色々なこ
とにチャレンジするようになったのは、市大で色々な人との
出会いがあったからだと思います。

私はまだまだ人間的に未熟ではありますが、成長する過程
を楽しみながら、いつか胸を張って同窓生の皆様とお会いで
きる日を楽しみにしています。

（生応化・平成17年卒・同20年前期博士課程修了・東レ㈱）

次に、教員の状況を報告します。今年の3月に橋本先生が
定年退職、高坂先生が高知工科大学にご栄転のために退職さ
れ、4月1日付で兼子先生が准教授に昇格されました。しか
し、大阪市の財政悪化の影響を受けた大学全体の定員削減に
より後任教員の補充はできておらず、知的材料工学科の教員
数は10名に減員しています。しかし、機械物理系専攻の知的
材料工学講座では4分野の研究体制は変えていません。知的
材料工学科の教員は新機械工学科の教員でもありますので、
教育では知的材料工学科の3・4年次の学生だけでなく、旧
機械工学科の先生方と一緒に新機械工学科の1・2年次の学
生への専門科目を担当しております。

最後になりましたが、卒業生の皆様の益々のご活躍を心よ
り期待しておりますと共に、今後とも温かいご支援を賜りま
すようお願い申し上げます。

（工学研究科教授・知的材料工学科主任教授兼（新）機械工
学科主任教授）

近況報告

岩本 将紀



卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？平成21年3月に知的材料工学科を卒業してから1年と半年が過ぎました。現在は株式会社IHIの愛知工場に勤めています。この度、同窓会報の寄稿の依頼ということで、学生時代を振り返りますと、試験直前に友人たちと学術情報総合センターに集まって一緒に勉強したり、研究室で夜遅くまで卒業論文を書いていたことを思い出します。

私は現在、5万6,000載貨重量トンのばら積貨物船のブロック建造計画・精度管理、大水深型有脚式離岸堤の大組立計画・寸法管理など大型海洋構造物建造に関わる仕事に携わっています。もちろん工場の作業員の方が安全に効率よく

作業する為に計画するのですが、工場内のルール、設備、機械、クレーンの能力、作業者がどのように作業しているのかを熟知していなければ、きちんとした計画はできません。そのため職場巡視をしつつ作業の方々に工具や器具の使い方を教えていただいたり、職長や班長に作業者の人員計画を教えていただいたりして毎日覚えることだらけです。また海外の案件も多くあるので英語が必要不可欠となっており、現在英会話に通って必死に英語の勉強をしています。学生時代にもっと英語の勉強をしていれば良かったと痛感させられます。

社会人になって、まだ2年目なのでこれからどんどん仕事の負担が増えてくると共に壁におち当たることが必ずあると思いますが、持ち前の忍耐力と根性で乗り切ってみせます。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(知的材料・平成21年卒・株IHI)

環境都市工学科

環境都市工学科の近況

矢持 進



環境都市工学科の卒業生の皆さん、元気ですか。

この同窓会報を活用しての「環境都市工学科卒業生への近況報告」は今年を含め、後2年となりました。学科の学生は3年生と4年生だけになり、環境都市工学科創設とともに市大工学部に異動して

きた私としてはやや寂しい気がします。

明日からJABEE審査を受けます。皆さんもご存じとは思いますが、この審査を受けて学科の教育プログラムが一定水準に達していると認められると、卒業生は環境工学の技術士補の資格を申し出により得ることができるというものです。何人かの卒業生（4期生から）はこの恩恵を受けたでしょうし、「全く関係ないね」という人もいるでしょう。中間審査を含めて今回で3回目ですが、今度は環境都市工学科と都市学科両方の教育プログラムを環境工学の新基準で評価されることになりました。一つの学科プログラムでも作業量が多いのに二つになると準備が大変です。各研究室の教員は額に大汗をかきながら頑張っています。前回のJABEE審査では、審査員団から「環境都市工学科の学生と卒業生がすばらしい」とお褒めの言葉を頂きました。皆さんあっての本学科です。この審査の関連で、卒業生の取得資格などのデータを見る機会がありました。職場で技術士の資格を取った方、博士号を大学から勝ち取った人、海外出張で頑張っているお兄さん、公務員になって公共的な仕事をしているお姉さん、目立たないけれど堅実に働いているのであろう諸氏など、千差万別です。でも、リストを見ながら、顔を思い出しつつ、きつと個々相応に活躍しているのだらうと楽しく想像しました。おっと、昨年の教員の卒業生、赤崎弘平先生は非常勤講師として現役時代よりも元気に「都市計画」の講義を続けられて

いることをつけ加えなくては！皆さんも健康には気をつけ、お元気です！

(工学研究科教授・環境都市工学科主任教授)

近況報告

井上 智



卒業生の皆様、元気にご活躍されていることと存じます。私は平成18年3月に環境都市工学科を卒業、平成20年3月に都市系専攻を修了し、現在は建設業界で工事現場の設備工事施工管理を行っております。

修士の時には主に都市の熱環境を学んでおり、建設業界はとても関係が深い業種です。元々建設業界に興味があったわけではありませんが、就職活動の際に縁があって入社した次第です。今となっては、新築建物の施工管理を2件任せられ、とても楽しくやりがいがある仕事を選んだと実感しており、日々の業務に追われながらも楽しく仕事をさせて頂いています。今は3年目で、建築設備についてはまだまだ判らないことだらけですが、大学時代に学んだ環境分野に関わる知識や技術は大いに役立っております。

建設業界は環境に関わる分野には大きく関わっている反面、その技術確立や普及にはまだまだ課題が多く、今後とも環境技術を確立し、それを広く周知させていく必要があります。環境都市工学科の卒業生として、いつの日か一人前になって環境に配慮した建物造りに貢献できたらとワクワクしております。

(環境都市・平成18年卒・同20年前期博士課程修了・株竹中工務店)

事務局年報 (2009・12～2010・11)

2009年(平成21年)

12月：会報第25号の発送完了・事務局直接配布開始(9日)

2010年(平成22年)

1月：第21回評議員会開催通知を発送(20日)。新保・志野両監事の会計監査(21日)。

第19期第5回理事会にて第21回評議員会の議案を検討・決定(28日)。

2月：市大の学術情報総合センター文化交流室にて第21回評議員会を開催、第19期1年目(2009年度)の経過と収支決算報告及び会計監査報告、会則の変更、第19期2年目(2010年度)の理事の若干の改選・事業計画・予算を承認。その後の「第8回キャンパス交流会」では、谷口与史也教授と小畠誠也准教授の講演を拝聴の後、懇親会を催し、恩師(非会員)2名を含む80名の同窓が絆を深め合った(20日)。

3月：平成22年度新入生への当会会則・案内・会報及び学友会入会要請書の配布を工学部事務室に依頼(4日)。卒業・修了生宛送別文書と会費納入要請書の配布を各学科理事等に依頼。工学部大講義室における「工学部・工学研究科送別式(学部卒業：280名、前博修了：156名、後博修了：21名)」に田守会長、山田、小林、木村副会長及び理事有志が出席(24日)。

4月：新入生への学友会入会受付支援(2日)2010年度入学式が大阪市中央体育館にて挙行される。(5日)。第19期第6回理事会で、本年度の活動計画の具体化、特に工学部同窓会設立50周年記念募金の進捗状況と今後の取組についての検討(28日)。

5月：第119回市大ボート祭に協賛アドバルーンを掲揚(22、23日)

6月：市大同窓会連絡会役員会・運営委員会で本年度同窓会費の配分案を決定(25日)。第19期第7回理事会で、同窓会設立50周年記念事業の今後の進め方について検討(28日)。

7月：第9回ホームカミングデー第1回実行委員会で今年度の取組を検討(9日)。

8月：工学学術情報交流センターの夏季休館(10～13日)。奨学生募集案内の発送(18日)

9月：第19期第8回理事会で設立50周年記念事業の取組状況の報告と、8月末で終了した記念募金を来年3月末まで延長することと、会報26号の発行を決定した(29日)。

10月：会長・名誉会長・定年恩師・学科主任・卒業生に会報26号原稿の依頼状を発送(13日)。第9回ホームカミングデー案内状を理事・評議員を中心に送付(20日)。

11月：第9回ホームカミングデー受付・全学イベントに同窓会員30名参加(3日)。会報26号の初稿を開始(17日)奨学金申請書の受付(15日～19日)

(1)第19期第1年度(2009年1月～12月)収支決算報告

(イ)経常費収支決算表(円)

収 入		支 出	
終身会費	6,636,000	会議費	182,725
預金利息	4,345	行事費	94,695
雑収入	0	会報	1,802,166
前期繰越	6,021,270	会員名簿	178,500
		協賛費	286,071
		渉外費	15,561
		通信費	73,335
		事務局費	3,083,290
		事務費	127,149
		備品費	37,800
		次期繰越	6,780,323
合 計	12,661,615	合 計	12,661,615

(ロ)借貸対照表(2009年12月末、円)

借 方		貸 方	
振替口座	1,042,844	累計剰余金	6,021,270
普通預金	3,879,191	当年剰余金	759,053
定期預金	53,063,772	特別基金	51,205,484
合 計	57,985,807	合 計	57,985,807

(2)第19期第2年度(2010年度1月～12月)理事会役員

会長：田守芳勝(物38)
 副会長：宮本万功(機43)、山田文一郎(化修40)、木村雅之(電51)、小林俊明(土44)、坂 壽二(建42)
 理事：下田隆二(機29)、人見宗男(機31)、南斎征夫(機39)、東 恒雄(機41)、笠上文男(機50)、瀧山 武(機59)、栗政幸一(電31)、建部 渉(電35)、行藤三男(電36)、杉本 豊三(電42)、山口南海夫(電44)、南 繁行(電45)、前谷治男(電51)、村治雅文(電62)、近藤紘一(化37)、三刀基郷(化39)、三浦洋三(化42)、西口克彦(化43)、大嶋 寛(化49)、小河一真佐(建26)、都築 周(建29)、小島 弘(建35)、溝神宏至朗(建36)、貴志義昭(建41)、赤崎弘平(建45)、谷口徹郎(建59)、井上 保(土26)、園田恵一郎(土36)、湊勝比古(土41)、日野泰雄(土50)、大島昭彦(土55)、島谷宏文(物38)、柳川重昌(物44)、和倉慎治(物45)、宇佐美照夫(物46)、大前秀治(物56)
 監事：新保市弘(電35)、志野太一(物40)

(3)第19期第2年度(2010年1月～12月)事業計画

- ①会報第26号の12月上旬発行・配布。
- ②工学部・全市大行事及び事業への協力。
- ③会員相互の親睦交流の促進。
- ④特別基金の運用と有効活用。
- ⑤設立50周年記念事業。

(4)第19期第2年度経常費予算(円)

収 入		支 出	
終身会費	4,104,000	会議費	200,000
預金利息	24,000	行事費	100,000
雑収入	4,000	会報	1,500,000
前期繰越	6,780,323	会員名簿	200,000
		協賛費	300,000
		渉外費	20,000
		通信費	80,000
		事務局費	2,900,000
		備品費	200,000
		事務費	200,000
		次期繰越	5,212,323
合 計	10,912,323	合 計	10,912,323

工学部の電話番号[06-6605-(下記番号)] (2010.10.1現在)

機械工学科	電気工学科	応用化学科	建築学科	都市基盤工学科	応用物理学科
西村 伸也 2664	南 繁行 2760	小槻 勉 2693	谷池 義人 2764	大内 一 2173	中山 正昭 2739
伊奥田浩志 2963	武智 誠次 2677	有吉 欽吾 2791	谷口 徹郎 2707	角掛 久雄 2723	金 大貴 3087
加藤 健司 2665	曾田 田人 2678	島中 康夫 2979	木内 龍彦 2706	山口 隆司 2765	中山 弘 3088
脇本 辰郎 2965	高橋 秀也 2679	南 達哉 2980	谷口与史也 2709	松村 政秀 2735	福田 常男 2738
川合 忠雄 2667	白藤 立 2681	圓藤紀代司 2697	吉中 進 2708	東田 淳 2725	細田 誠 2742
今津 篤志 2662	大島 昭子 2680	辻 幸一 3080	梅宮 典子 2710	大島 昭彦 2996	菜嶋 茂喜 3089
佐藤 嘉洋 2670	田中 健司 2975	米谷 紀嗣 2984	横山 俊祐 2199	日野 泰雄 2730	熊谷 寛 2879
川上 洋司 2668	向井 孝彰 2792	松本 章一 2981	藤本 益美 2989	内田 敬 3099	小林 中 3030
瀧山 武 2672	宮崎 大介 2877	小島 誠也 2797	徳尾野 徹 2713	吉田 長裕 2731	寺井 章 2748
高田 洋吾 2970	辻本 浩章 2685	佐藤絵理子 2982	宮本 佳明 2714	重松 孝昌 3078	杉田 歩 2904
	村治 雅文 2976			鬼頭 宏明 3050	宮口 智成 2768
情報工学科	バイオ工学科	知的材料工学科	環境都市工学科	共通	事務室等
柳原 圭雄 2773	北村 昌也 2782	澤田 吉裕 2660	嘉名 光市 2715	(応用数学)	教務担当 2653
鳥生 隆 2684	中西 猛 2783	逢坂 勝彦 2962	佐久間康富 2716	多羅間茂雄 2669	庶務担当 2651
中島 重義 2683	大嶋 寛 2700	元木 信弥 2661	中尾 正喜 2993	鈴木 広隆 2712	
辰巳 昭治 2688	五十嵐幸一 2699	山崎 友裕 2181	西岡 真稔 2718	(機械工作室)	
上野 敦志 3081	長崎 健 2696	大島 信生 2961	鍋島美奈子 2719	吉岡 真弥 2967	
岡 育生 2779	東 秀紀 2168	A・ピノグラドフ 3049	矢持 進 2175		
阿多 信吾 2191	田辺 利住 3094	兼子 佳久 2179	遠藤 徹 2732		
原 晋介 2795	立花 亮 2702	横川 善之 2743	貫上 佳則 2728		
杉山 久佳 2796	東 雅之 3092	中村 篤智 2741	水谷 聡 2727		
辻岡 哲夫 2192	立花 太郎 2167	岸田 逸平 2194			

第22回評議員会のお知らせ

評議員各位には当会の活動に種々ご協力頂き誠に有難うございます。

さて、標記の第22回評議員会を下記の通り開催致します。万障お繰り合わせの上ご出席下さいませようお願い申し上げます。

記

日時：2011年(平成23年)2月19日(土)
午後1時00分～2時00分
会場：大阪市立大学学術情報総合センター
1階 文化交流室

なお、ご欠席の場合の委任状(後日送付)を、
2011年2月10日までに必ずご発送ください。

編集後記

同窓会報(第26号)をお届けします。この号から4ページ増の24ページとなりました。増ページ分の内容は、皆様に市大工学部の教育・研究の活動をお伝えするためのページ(1ページ)と、クラスだより(会員短信)のページ増と50周年記念事業関連のページ(合わせて3ページ)です。

今年を振り返っての印象は第一に猛暑ではないでしょうか。気候が気になるほど、世の中が平和であるかといえまじたく逆のようです。つい、昔は貧しかったが気概と希望があったといいたくなります。鈴木、根岸両博士がノーベル賞を受賞されたことは、技術立国を目指すにはいい励みになるでしょうが、両博士が業績を重ねられた時代は決して「大國・日本」ではなかったはず。それと、両博士ともPurdue大学で、ご自身もノーベル賞受賞のH. C. Brown教授の指導を受けておられることは、教育あるいは研究指導の真髓を垣間見たように思えます。

今回の受賞の対象にはなりませんでしたが、市大におられた熊田誠先生(故人)が御存命であれば日本人3名の受賞が実現していたかもしれません。現在、市大工学部で進行中の研究が、後年の大きな成果につながっているかもしれません。(山田文一郎)

編集委員

○山田文一郎(応化：昭和40年修) 瀧山 武(機械：昭和59年卒)
大嶋 寛(応化：昭和49年卒) 村治 雅文(電気：昭和62年卒)
谷口 徹郎(建築：昭和59年卒) 大島 昭彦(土木：昭和55年卒)
人見 宗男(機械：昭和31年卒) (○印：委員長)

“工学部同窓会設立50周年記念”

— 式典・講演会・祝賀パーティーのご案内 —

大阪市立大学工学部同窓会は昭和35（1960）年に創設され、本年11月に設立50周年を迎えました。会員数も、工学部の前身に当たる旧制大阪市立都島工業専門学校並びに大阪市立大学理工学部（工科系）の卒業生を含めほぼ1万名に達しました。

この間、実業界をはじめ各界の指導者として重責を果たしてこられた方々、現にリーダーとして活躍しておられる方々、さらには今後を嘱望されている若い方々など、多くの優れた会員を擁するまでになりました。このように、会員諸兄弟のご活躍と卒業後にも及ぶ諸先生方のご指導に支えられながら、工学部同窓会としての輝かしい歴史と伝統を着実に培ってきています。

すでにご案内のとおり、工学部同窓会では、この設立50周年を機に、「工学部への優れた学生の入学を支援するための事業」ならびに「インターネットを活用して会員の交流を充実させるための事業」を計画し、それらは漸次実施に移されてきています。また、会員諸兄弟お一人お一人にこれらの事業をご支援いただくため、50周年記念募金をお願いし、すでに多数の方々から温かいご応募をいただいています。

今般、これらの事業に関するご報告を含め、下記の要領により設立50周年記念式典、記念講演会ならびに祝賀パーティーを開催いたします。会員の皆様方にはぜひとも奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

【日 時：2011年2月19日（土曜日）午後2時30分～午後7時00分】

1) 50周年記念式典と記念講演会

○記念式典 時間：午後2時30分～午後3時00分

会場：大阪市立大学学術情報総合センター 文化交流室

開式挨拶 工学部同窓会長

来賓挨拶 大阪市立大学学長

西澤 良記 先生

大阪市立大学工学研究科長・工学部長

大嶋 寛 先生

大阪市立大学同窓会連絡会会長

倉持 治夫 様（有恒会会長）

○記念講演会 時間：午後3時10分～4時45分、会場：式典会場と同じ

(1) 「工学部同窓会50年を振り返って」

前事務局担当理事 人見 宗男 氏（31年卒）

(2) 「ものづくり革新へのチャレンジ」

オムロン株式会社執行役員・ものづくり革新本部長 吉川 浄 氏（58年卒）

2) 祝賀パーティー 時間：午後5時00分～午後7時00分

会場：第1学生ホール（旧教養食堂・プチシェリエ）

会費：卒業生3000円、学生500円（当日、会場にて徴収）

【申込方法】（1）連絡事項：①ご氏名、②学科（専攻）名、③ご卒業（修了）年、
④住所（連絡先）、⑤講演会の出欠、⑥懇親会の出欠

（2）方法・期日：ハガキ、FAXまたはEメールで、2011年2月15日までに

【申込先】大阪市立大学工学部同窓会 事務局

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138、FAX：06-6605-2769

Eメール：dousokai@office.eng.osaka-cu.ac.jp